

# 令和 2 年度 事業報告

令和 2 年度は、「新型コロナウイルス感染症」が、国民生活を脅かし、国内外問わず様々な影響を及ぼし、特に、花きについては、イベントの中止などを受け、需要の低迷から苦しい販売状況となった。一方、青果物については、外出自粛・飲食店の営業時間が制限され、業務需要は低迷したものの、内食中食需要の拡大によって、量販店や宅配業の売り上げが例年を大きく上回るといった需要動向が変化した年であった。

そのような中、公益目的事業である青果物価格安定対策事業では、価格の低落のあった月・旬の品目について、交付算出額（48,063,017 円）のうち 48,063,017 円を補償交付金として交付した。

なお、支払いをストップしていた県単事業については、平成 31 年 1 月から損害賠償額の算定方法が全国的な価格動向を反映する形となり、市況の価格下落分は賠償されなくなったこと、新型コロナウイルスの感染拡大により、青果物の価格が低落する可能性が高くなっており、生産者の経営が不安定になる可能性があることから、令和元年 1 月出荷分から交付を再開することとした。（令和 2 年度第 1 回理事会決議）

## 1. 事業概況

### ◆ ◇ ◆ 青果物の生育・販売環境（主な特徴） ◆ ◇ ◆

#### 【果実】

品目等	販売環境
もも	モモせん孔細菌病の感染が拡大し、シーズン後半まで被害を及ぼすこととなった。価格は、前半から例年にない高値のままピークに突入した。
日本なし	着果数の減少、黒星病の発生などにより、出荷数量が計画数量を大きく減少した結果、過去に経験がない高値での販売時期があった。
ぶどう	果実全体で、着果不良・病害の影響で入荷が減った。「シャインマスカット」については、末端での需要も高く、安定した価格帯で販売が続いた。
りんご	各産地台風などの被害もなく、また、輸出が減少したことから潤沢な数量が出回り、販売苦戦が強いられ相場が低迷した。

#### 【野菜】

品目等	販売環境
アスパラガス	（春芽）：各量販店で集客自粛もあり、売り場を広げる機会が持てなかった。 （夏芽）：気温上昇によるトロケの発生が近年続いている。
きゅうり	期間を通じての天候不順による影響で、産地ごとのピークが分散され（ピーク期が極端な増量にならず）堅調な相場が続いた。
トマト	夏秋トマトの最盛期は盆期間に重なってくるが、旅行等が控えられたため盆連休の間も客入りが良く、流通在庫を貯めることなく販売がされた。

さやいんげん	重量野菜・葉茎菜類を中心に7月の長雨等により入荷が少ないこともあり、7月～9月にかけて野菜全般に高値基調となった。
ブロッコリー	(春)：県内ピークの5月最終週に増量し相場が下がった。 (秋)：重量野菜の入荷増から野菜全般に荷動きが鈍化傾向となった。

## 【花き】

品目等	販売環境
花き全般	高齢化の影響で産地は縮小傾向にあり、出荷量も不安定な状況であった。年明けからは、イベントの中止、冠婚葬祭の規模縮小が続き厳しい状況であった。

### (1) 事業別交付金額

このような状況のもと、下表の補償発動内容となった。

単位：円

事業名	交付金支払額	(交付算出額)
県 単	33,641,601	33,641,601
特定野菜	7,294,416	7,294,416
契約特定野菜	0	0
指定野菜	7,127,000	7,127,000
計	48,063,017	48,063,017

補償交付金の交付を行うことにより、果実・野菜・菌茸・花き生産者の農業振興意欲を支えとともに、会員や生産農家の負託に応えることができた。

### (2) 主たる事業実施事項

#### ①. 果樹経営支援対策事業（補助事業）

業務方法書の定めるところにより、事業実施者に対し補助金の交付（事業費：125,497,758円、補助金：97,997,004円）を行った。

#### ②. 果樹未収益期間支援事業（補助事業）

業務方法書の定めるところにより、果樹経営支援対策事業にて「改植」、「新植」を行った事業実施者に対し補助金の交付（事業費：210,077,780円、補助金：207,900,635円）を行った。

#### ③. 果樹産地再生支援事業（自然災害緊急事業）（補助事業）

台風19号で浸水した園地、モモせん孔細菌病がまん延した園地が甚大な被害を及ぼしていることから、樹上選別・摘果作業、被害果実処理、罹病枝及び罹病葉の除去等を実施した事業実施者に対し補助金の交付（事業費：373,989,992円、補助金：370,520,071円）を行った。

#### ④. 受託事業（JA全農福島からの事務受託事業）

JA全農福島が行う、特定事業、指定事業に係る造成及び交付等の事務受託（受託料9,240,000円、事業費9,240,000円）を行った。

⑤. 受託事業（独立行政法人農畜産業振興機構からの業務受託事業）

機構が行う、野菜価格安定制度の普及促進に関すること等の業務受託（受託料 832,654 円、事業費 832,654 円）を行った。

⑥. その他

ア. 県果実生産出荷安定協議会への助成

公益財団法人中央果実協会の助成金（70,000 円）を受けて、JA 全農福島（県果実生産出荷安定協議会）に対し活動費に関する助成金（70,000 円）を交付した。

イ. 「福島発のキュウリビズ愛情込めてキュウリ栽培大作戦」への後援

県内小学生を対象に「きゅうり」栽培を通して、生命の尊さや食材への感謝の気持ちを育むことを目的とする表彰事業への後援を行った。（当協会会長賞受賞小学校：福島市立蓬萊小学校）

ウ. 「鍋奉行も納得 福鍋・満腹絶倒計画」への共催

本県産秋冬野菜をメイン食材とし、最優秀賞に輝いた「福鍋」を県内協力飲食店へ提供し、本県農産物の消費拡大を図ることを目的とする表彰事業への共催を行った。



Photo: キュウリ栽培大作戦 表彰式



Photo: キュウリ栽培大作戦 蓬萊小学校



Photo: 福鍋 最優秀賞ゴマたっぷり豆乳鍋



Photo: 福鍋 表彰式

### 青果物価格安定対策事業総括表

(単位：t、千本、円)

事業名	予約数量	補償限度額	交付金額
県単事業	37,204	2,303,781,180	33,641,601
特定野菜事業	5,741	554,036,330	7,294,416
契約特定野菜事業	0	0	0
指定野菜事業	30,628	2,335,189,000	7,127,000
<b>計</b>	<b>73,573</b>	<b>5,193,006,510</b>	<b>48,063,017</b>

(単位：円)

事業名	前期繰越額 <sup>1</sup>	納入・返戻 <sup>2</sup>	(交付額)	(取崩額) <sup>3</sup>	次期繰越額 <sup>1+2-3</sup>
県単	1,696,930,351	4,924,033	33,641,601	33,641,601	1,668,212,783
特定野菜	218,957,557	△7,492,448	7,294,416	7,294,416	204,170,693
契約特定野菜	397,157	0	0	0	397,157
指定野菜 <sup>(※)</sup>	220,502,500	14,086,500	7,127,000	1,435,000	233,154,000
<b>計</b>	<b>2,136,787,565</b>	<b>11,518,085</b>	<b>48,063,017</b>	<b>42,371,017</b>	<b>2,105,934,633</b>

※指定事業は機構が管理

### 生産基盤強化事業総括表

(単位：円)

事業メニュー	事業費	補助金
改植	68,744,430	67,524,795
新植	5,132,230	4,823,459
小規模基盤	2,059,167	1,029,583
用水・かん水	16,354,063	8,059,783
放任園対策	0	0
特認事業	(防風ネット)	12,097,784
	(防霜ファン)	4,461,600
	小計	16,559,384
未収益期間支援	(果樹経営)	92,542,215
	(営農再開)	115,358,420
	小計	207,900,635
<b>果樹経営支援対策・果樹未収益期間支援</b>	<b>335,575,538</b>	<b>305,897,639</b>

(単位：円)

<b>果樹産地再生支援事業</b>	<b>373,989,992</b>	<b>370,520,071</b>
-------------------	--------------------	--------------------

### 次期繰越収支差額

(単位：円)

	前期繰越額 <sup>1</sup>	収入 <sup>2</sup>	支出 <sup>3</sup>	当期差額 <sup>4(2-3)</sup>	次期繰越額 <sup>1+4</sup>
次期繰越収支差額	18,436,328	1,577,699,483	1,575,051,916	2,647,567	21,083,895